

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
	○			

事務事業No 767 事業名 第一特別展開催事業

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費
	その他		
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務
	その他		
会計・予算区分	会計		一般会計
	款		教育費
	項		社会教育費
	目		博物館費
	大事業		博物館事業
事項		第一特別展開催事業	

分野別目標	5	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち
政策	4	文化・スポーツの振興
施策	1	文化遺産の保護・継承
取組	2	文化遺産の公開と活用

事業種別	継続	主な事務事業	重点
事業期間		～	
関連個別計画			
担当課・担当課長 (Tel)	博物館	寺西 貞弘 (423-0003)	
関連課			

「3つの磨き」との関連性

「市民力を磨く」		「基盤力を磨く」		「観光力を磨く」		該当せず
コミュニティーの充実		メリハリある都市づくりの充実		史跡和歌山城の充実		
市民の健康環境の充実		道路・公共交通網の充実		海を生かした観光シフトの充実		
総合的な子育て環境の充実		総合防災体制の充実		美味しい和歌山市イメージの充実		
その他	○	その他		その他		

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
	和歌山に関して全国的に有名なテーマを設定し、貴重な博物館資料で展覧会を構成することによって、市民文化の向上に寄与する。	会期を展覧会シーズンである秋(10月～11月)に、公開日数30日程度で設定し、展示資料を全国から借用して、展覧会を構成する。なお、和歌山市立博物館条例第4条に基づき、特別展開期中は入館料を改定する。				
実施内容		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		「エコロジーの先駆者 南方熊楠の世界」の開催 会期 平成21年10月10日から11月23日まで 南方熊楠が神社祀り反対運動を開始して、今年で100周年を迎える記念の年にあたり、エコロジーの先駆者であった南方熊楠の世界に光をあてる。	紀州徳川家・歴代藩主による治世の裏には、それを支える多くの女性たちの存在があり、彼女たちが政治や文化に与えた影響は、決して少なくない。本展覧会は、歴代藩主の正室、側室、姫君といった、紀州徳川家ゆかりの女性たちに関連する資料を展示し、紀州徳川家の女性たちの生涯を概観するとともに、彼女たちの存在を再評価する。	祇園南海は、江戸時代中期の紀州藩の儒官で、優れた詩文の大家として知られている。高度な教養に裏打ちされた数多くの絵画作品をのこしており、これら祇園南海の作品と関係資料を一室に展示し、彼の残した足跡をたどる。	和歌山市出身で洋画家でもあるヘンリー杉本が、両親の住む米国に渡り、日米開戦により強制収用された日本人収容所で日々の暮らしを描いた絵は戦後歴史的記録として注目を浴びている。本展覧会では、市民図書館に寄贈された彼の作品を中心に彼の生きた時代を紹介する。	

2 事業コスト

事業費 千円		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算	
	事業費	4,121	3,912	5,200	4,660	4,600	5,176	6,204		6,204		
	伸び率 (%)	-	-	26.2%		-11.5%		34.9%		0.0%		
	人件費	常勤職員	6,714	6,714	6,714	5,883	5,883	5,897	5,897		5,897	
		非常勤職員	0	0	0	0	0	797	797		797	
		小計	6,714	6,714	6,714	5,883	5,883	6,694	6,694		6,697	
	国庫支出金											
	県支出金											
	市債											
その他	904	374	904	595	595	153	153		153			
一般財源(税等)	3,217	3,538	3,419	4,065	4,005	6,238	6,051		6,051			
所要人数	常勤職員	0.88	0.88	0.88	0.78	0.78	0.8	0.8		0.8		
	非常勤職員	0	0	0	0	0	0.5	0.5		0.2		

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況				平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	第一特別展開館日数				年度目標値	31	33	33	33
	実績値				31	26	30		
	年度別達成度				100.0%	78.7%	90.9%		
	単位	日	全体目標値	33	全体目標達成度				
成果指標	第一特別展入館者数				年度目標値	2200	2200	4000	2200
	実績値				2152	4131	2067		
	年度別達成度				97.8%	187.7%	51.6%		
	年度目標値								
	実績値								
単位	人	全体目標値	2200	全体目標達成度					
年度別達成度									

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 事業の方向性

方向性	A 計画どおり事業を進めることが妥当	B 1 事業の充実に向けた見直し	担当課評価 (所属長記載)
	B 見直しのうえで継続 C 終了 D 休止 E 廃止	B 2 コスト削減・成果上昇 B 3 類似事業との統合 B 4 外部委託導入・拡大 B 5 受益者負担の適正化 B 6 終期設定 B 7 その他効率化	
		B 1	

担当課評価の根拠	郷土出身の誇るべき偉人・先人の業績を展覧会を通して広く市民に公開することにより、市民の意識レベルの向上と強いては教育環境の向上にも繋がると考える。
「見直し」 「改善」案 ※上記、担当課評価が「B」評価の場合のみ	アンケート調査により、市民のニーズをとらえ、展覧会テーマの設定に反映させる。